

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業 中間評価結果

整理番号	2	大学名	京都大学
事業名	京都クリエイティブ・アッサンブラージュ (Kyoto Creative Assemblage)		

(評価決定後公表)

**【総括評価】**

B: 一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

**【コメント】**

**<優れている点>**

- ・ 連携3大学を中心に先進的で独自性の高いプログラムを開発・実施している。
- ・ 学生の応募数や受講数は順調に推移し、学生が主体的にプログラムに取り組んでいる。アンケートでは学生から高い評価結果を得ている。
- ・ 単に技法を学ぶのではなく、創造性に役立つ基本的な思考能力を身体を使って修得する内容のプログラムになっている。
- ・ 実施結果のフィードバックにより講義内容や教材を見直している。
- ・ 本プログラムのウェブサイトや動画配信によって積極的に情報を発信している。
- ・ 学生間のネットワークが構築されつつある。

**<改善を要する点>**

- ・ 他組織への展開の指針であるコンソーシアム参画組織数(新規)は令和5年12月時点で3組織と目標である10組織の30%にとどまっている。
- ・ 講義概要を始め、発信される内容は依然として理解しにくい。プログラム内で使われる重要な用語を一般的な言葉に置き換えるような努力が必要である。プログラムの主眼が価値創造のために現状認識を再構築する能力に向けられている特徴等を受講を検討する人が容易に把握できるような説明をすべきである。
- ・ 従業員をプログラムに参加させる企業としての直接的なメリットが分かりにくい。現時点では修了後の学生が本プログラムでの経験をどのように企業等で活かしていくのか具体的なイメージを提示できていない。
- ・ 文科省事業終了後に本プログラムを継続するための受講料設定や実施体制について具体像が描けていない。